



2023年 9月29日
第43号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横地申
第1号

「JR東労組横浜地本第28回定期大会」発言に基づく申し入れ 団体交渉を行う！ その③

4. 信号メンテナンスセンターの宿直業務において、信号通信設備技術センターからの宿直者が出せず、メンテナンスセンターから2名を出ることが増えていることから、技術センターに十分な要員配置を行うこと。
【会社回答】**関係法令**等に則り取り扱っている。

組 合		会 社
関係法令とは何を示しているか？		宿直に関する法令がある。労基法の41条、施行規則の23条。それに基づいて宿直を行っている。
これまで横浜の中では、技セ1名メセ1名で宿直を組むことを基本としてきた。昨年10月の組織再編により信通課が信号設備技術センターに移管したことで人が不足し、技セからの宿直に人が出せないという問題になっている。会社として問題意識はないか。		技セ・メセを基本として宿直の勤務をつくっている。今年度からメセ・メセでの宿直が増加していることは認識している。宿直に関しては関係法令の中で、宿直が出来る体制は「週に1回」という縛りがある中で、そこで運用しなければならない。技セ・メセ総体で割り振りをやっている。
最近ではメセ・メセの宿直体制が増えているという理由は。	退職者がいる中で、技セ・メセ総体として空いた穴を回していかなければならないところで、メセ・メセの体制が増えてきた。	
今後の見通しは、メセ・メセ体制での宿直はさらに増えていくのか。	今いる技セとメセの人数で回していかなければならないので、増えるか減るかは一概には言えない。週1回の運用がある中で、技セとメセで調整して宿直を行っていく考え。	
宿直に関する法令に則り週1回までという宿直勤務の回数をクリアできるように、技セとメセそれぞれに人を配置していくというのでよいか。	そうだ。違反を犯さないようにしっかりと技セとメセで調整を行っただうえで宿直体制をとれる体制をしっかりと取っていく考え。	
あわせて、メセにおける監督員業務や夜間立ち合いがあっても法令に則った宿直体制が組める体制をとっていくというのでよいか。		その通りである。

5. 軌道回路の短絡不良に起因する重大な事象が多発していることから、信号制御に直結しながらも定期運用がない線路に対する改良を行うか、対策が完了するまで線路の使用停止を行うこと。
【会社回答】引き続き必要な対応は実施していく考えである。

組 合		会 社
軌道回路の短絡不良に起因する重大事象として、大船駅の異線現示と藤沢駅の一本松踏切の無遮断があるが、2つの事象に対する対策を示すこと。	大船駅の異線現示については原因が特定されていないが、キヤ195系の車輪踏面に鉄酸化物が付着していたというのが一つの要因ではないかということで車輪の研磨を行っている。藤沢駅の一本松踏切に関しては、踏切制御子が錆で認識できなかったため車両があるが踏切が開いてしまった。レールメッキを行う調整をしている。また、10両編成が入区すると、その先に踏切があるため60秒後に踏切が開く時素があったが、これを無効化し10両でも踏切が閉まったままの対策をとっている。	
共通するものとして定期運用がない線路である。こういった線路に対する短絡不良対策について横浜支社として考えていることはあるか。	今回の事象を鑑みて、ダイヤで何か検討しているかと言えば、現時点では定期列車は検討していない。	
レール研磨の作業は線閉を取って時間もかかり、作業環境も悪い。使用頻度が低い重要な線路に対してレールメッキを求めたい。	主張は受け止める。コストがかかるので無尽蔵にはできない。費用対効果を見ながら判断していきたい。	
臨時列車や輸送混乱時に急遽に普段使用しない線路を使用する場合、指令サイドや駅サイドから事前に入線を禁止したり番線を振ったりしたりしてなるべく線路に入れない装置する考えはあるか。	瞬時の判断はあるが、基本的には運転整理の中で使用できるものは使用する考えなので、基本的には運転整理においては使用していく。	
同種事象、短絡不良に起因する信号の現示不良を防ぐためにはレールメッキを求める。それが出来ないうちは運転整理においても配慮を求める。	安全もちろん大切だと思うが、必ず錆で短絡がうまくいかないというわけではないので、そこはある程度リスクがあるかもしれないが、安全安定輸送の一つとして指令として運転整理を実施していく方向になる。	
安全がトッププライオリティと言ったときに、安全と安定は一致しないし対立するもの。会社としても考えていかなければならない。そこを同一的に扱うとはならないのではないか。	意見として承る。対立という表現より相反するもの。安全と安定は両天秤にかけて両方になるのは難しいのは承知しているところ。どこまでやったら100%に近づくのか、いわゆる究極の安全に近づくのかを考えて判断しながら対策・対応を進めていく。	

「安全第一」安全と安定は同一ではない！ その④につづく